

親子バードウォッチング

～子どもたちが野鳥をはじめとした自然環境に興味・関心を持ち、学んでもらうために～

松岡和彦・油谷邦夫・藤川久美子・豊川尚子・宮崎亮太（日本野鳥の会ひょうご）

1. はじめに

親子バードウォッチングは、2011年に日本野鳥の会ひょうごの有志で結成され、今年で7年目を迎えます。子供たちの自然離れや理科離れが叫ばれる中、私たちは子どもたちが自然に接して、いきいきとした科学を体験し、自然界の厳しさや不思議に感動そして関心を持つことによって、「観察する力」、「考える力」、「思いやる力」を身に付けて欲しいと考えています。そのために「野鳥や植物、昆虫、動物など生き物すべてが相互に関連し、影響を与えながら、人を含めた自然環境をつくりあげている。」ということ、一緒に楽しく学べるように努めています。今後子どもたちが自然保護や環境問題に興味・関心を持ち、それらの活動・研究に携わるようになってもらうことを願い、活動しています。

2. 活動内容

(1) 活動場所

偶数月の第3日曜日に、神戸市立森林植物園で森林の野鳥を中心にしたバードウォッチングを実施しています。また、8月には、パワーポイントを使用した野鳥の生態の話や、古巣や剥製等を展示する室内ワークを行っています。また、1年に2回、甲子園浜で1月はカモ・カモメ類、5月はシギ・チドリ類の水辺の野鳥を中心にしたバードウォッチングを実施しています。

(2) 季節に応じたテーマ設定でより関心を

バードウォッチング親子では、季節に応じて、その季節に合うテーマ設定を考えています。そのテーマに沿って、野鳥の生態や自然の不思議を子どもたちと一緒に探求して、自然に興味を持ってもらえることを目指しています。

○春

- ・シベリアなど北方への渡りに備え、栄養や脂肪を蓄えるための採餌する野鳥の観察。
→なぜ警戒心が薄れるのか、また、鳥たちを思いやる観察をすることの重要性和意義
- ・繁殖活動をする野鳥の観察。→さえずりの役割、なわばりを持つ意味

○夏

- ・役目を終えた巣箱の観察。
→巣材にはどのようなものを使用しているか、巣箱に侵入もしくは危害を及ぼした外敵はいるのか
- ・真夏に野鳥が少なく感じ、観察しにくくなることを実感する。
→なぜそうなるのか、巣立ったヒナはどのような場所にいるのか

○秋

- ・その年生まれの若鳥を観察し、成鳥とどのような違いがあるかなどを観察する。
→若鳥の分散移動が成鳥に排除されることによって生じることを知る。
- ・渡り鳥を観察する。→渡りとはどういうものか、また、なぜ渡りを行うのか

○冬

- ・巣箱の設置→巣箱を掛けることの必要性
- ・地表面をクワやスコップを使用して掘り返し、エサを求めてやってくる野鳥の観察。
→なぜ地表面を掘り返すと野鳥がやってくるのか

(3) 活動の方法について

- ① 双眼鏡やスコープを使用して野鳥や自然を観察し、随時図鑑や絵による説明を加えたり、子どもたちや時に一緒に参加されている保護者、クイズや発問を行い、理解を深めてもらうようにしています。
- ② 8月には神戸市立森林植物園において、午前はパワーポイントを使用した野鳥の動画や生態の話、剥製や羽根、古巣などを展示した室内イベントを行い、午後に巣箱の中の観察とバードウォッチングを行うという、自然をたっぷりと学べる企画を行っています。
- ③ 甲子園浜で年に二回行われる親子バードウォッチングでも、バードウォッチングとともに、紙芝居や野鳥の全般的な話を行う室内ワークを行っています。
- ④ 親子バードウォッチングでは、毎回パンフレットを作成して参加者に配布し、希望者には内容を深めた「たより」を送付しています。
- ⑤ 子供たちの向上心、探求心に応えるべく、2017年12月より「ジュニアスタッフテスト」と題して、野鳥の識別力などをテストし、5段階の検定を設け、合格者には検定証を発行して、次代のリーダーを育成する活動を始めました。
- ⑥ 親子バードウォッチングの普及とスタッフの知識・技能の向上を目指し、様々なイベントに参加しています。「共生のひろば」には昨年から参加させていただき、今年は、楽しみながら野鳥をはじめ自然に興味を持ってもらうことを目標に、バードセイバーについてのポスター展示とぬりえ、野鳥クイズと「鳥は何を食べているの？鳥になって知ろう！」を作成しました。野鳥クイズは簡単な問題から少し難しい問題を組み合わせ、野鳥の知識を少しでも多くしてもらおうと考え作成しました。また、「鳥は何を食べているの？鳥になって知ろう！」では、くちばしには洗濯ばさみ、エサにはゴム板を使用するなど身近なものを使用し、鳥の目線になってエサを探してもらい、鳥の採餌を体感してもらおうと考えました。また、バードセイバーについての知識と関心を持ってもらうために、バードストライクの現状と課題のポスター展示と塗り絵によるバードセイバー作りをしてもらいました。

3. 活動の現状と今後の展望について

活動を始めた2～3年は、参加者が1～3組という少ない時もありましたが、近年では、リピーターも増え、うれしいことに野鳥や自然に興味を持つ子どもたち同士のつながりも出来つつあります。しかし、中学生以上になってしまうと野鳥に興味を持ったり、野鳥をはじめ自然にふれあう機会が極端に減ってしまうように感じるため、今後は若年層の自然に触れ合う機会づくりを課題として挙げておきたいと思います。常に子どもたちの気持ちを受け止めつつ、気配りをもって活動を行い、より多くの子どもたちに自然に興味・関心を持ってもらい、何よりも自然とふれあい楽しいという気持ちを持ってもらえるように、今後も活動に創意工夫し、普及・発展させていきたいと考えています。